

東葛しぜん特別研修会

自然観察基礎講座「夏の自然と虫の暮らし」(夏編)

壱岐貞俊 上野義介 (松戸市)

日 時：2015年6月27日(土) 10時～15時 天気：雨のち曇り

場 所：21世紀の森と広場(松戸市) パークセンターと共催

参加者：一般8名、会員17名

担当指導員：田島・渋谷(孝)、アシスタント：小川・高野、事務局：田中・三嶋

午前中の座学は、①夏ってどんな季節、②昆虫とは、③昆虫の暮らし、④いろいろな昆虫、という組立で“虫”についての観察の要点が実例を織り交ぜ要領よく説明され、且つ いろいろな昆虫がいるわけは？ 成長過程で体の形を変えるわけは？ 等、今後このポイントから”虫”を見ていけば、自然観察初心者の私でも貴重な暇つぶし手段になると思えるものでした。翌日 NHK 番組「ダーウィンが来た」は、私には只の虫であるハンミョウについて、保護色・擬態、アリを捕食する様子、幼虫が土中の穴で待ち伏せし、通りがかりのアリなどを捉えて穴に引き込む場面、天敵？ の蛙に対し簡単には捕食させない技等、番組も座学で学んだ視点で“虫”を捉えその生き様が一筋縄ではない実際を提示していて、感動モノでした。講師の田島さんが“虫”の観察ではいろいろな例外に出くわすから、それがまた興味をそそると仰っていたことが納得できました。里山活動で汗を流す傍ら、上を見て、しゃがみ込み、そしてクズ(つる性雑草)などの刈り取るには厄介な雑草でも、じっくり観察して少し偏見を緩和できないかという気にもなっています。秋に咲く赤紫色の花と甘い香り、タテハチョウの食草、葉を食べるゾウムシやチビタマムシなどで楽しくなると思います。(壱岐)

出張明けの蒸し暑い土曜日、《遅刻だあ〜》と慌てて飛び起き、21世紀の森と広場へと猛ダッシュ。パークセンター到着時には汗ダク状態。慌しく身繕いをすませ田島氏による講義を受ける。ムシの定義にはじまり、共生や食物連鎖の中での昆虫の位置づけ等を習得。アカデミックなムードに浸りながら座学を終え、昼食後、愈々野外観察スタートとなる。幻想的な霧噴水が水面にたなびく中、我々は野草園へと。BINGO は埋まる？ムシはいる？とのさまざまな思いを胸に、渋谷氏のガイドに従いながらロードを進む。最初はクモとの遭遇。コクサグモとのこと。何気なくやり過ごしてしまう灌木の至る所に巣を張り巡らせている。いささか過密状態だ。そして、ヤゴの抜け殻を発見。視点を地表から45cm位の高さに落としてみるだけで普段と異なる世界に入り込めることに感動！顔を上に向けオニグルミの実を発見し、悦に入る自分の傍らでは、観察員の先輩方が捕虫網を用いて次々と羽虫や甲虫を捕獲している。蝶やイトトンボやヨツスジハナカミキリなど。トンボについては、その場でガイドブックを広げ、正しい種名を即座に調べる(セスジなのかアジアなのか等々)。実践的なことが大変心地よい。また、カミキリについては、蜂に擬態していることを教わり、その姿が神秘的にすら感じられた。しばし、バッタやアゲハを求め、ハンター気分。そして、カルガモのすみかを横目に更に奥へと進む。可愛らしいゾウムシやチビタマムシに出会いながら、“マムシに注意”のプレート地点まで歩を進める。ムシの親心を感じ…と言うよりは、見初められたアオキの木が不憫すぎるのだが、ミタマバエによってゴールが形成されている“実”を割る体験もでき、非常に興味深かった。あっという間に時間は過ぎさり、講座は終了。湿度が高く、ムシムシする陽気の中、ムシとの距離が縮まったことを体感できた有意義な一日でした。渋谷氏をはじめ観察員の先輩方に改めて感謝申します。ありがとうございました。(上野)



アミから取り出し:ヨツスジハナカミキリでしょうか？